

## 28KA-am04

薬学部における救急ケアシミュレータを用いた救命救急教育への取り組み

○徳永 仁<sup>1</sup>, 高村 徳人<sup>1</sup>, 緒方 賢次<sup>1</sup>, 吉田 裕樹<sup>1</sup>, 永田 将司<sup>1,2</sup>, 日高 宗明<sup>1,2</sup>, 松岡 俊和<sup>1</sup>, 小野 誠治<sup>1</sup>, 山本 隆一<sup>1</sup>, 有森 和彦<sup>2</sup>(<sup>1</sup>九州保福大薬, <sup>2</sup>宮崎大病院薬)

【目的】九州保健福祉大学薬学部ベッドサイド実習では、一刻を争う救命救急にも対応できる薬剤師の育成を目指している。そこで、我々は緊急ケアシミュレータを用いて様々な救命救急処置を体験することができるシナリオを作成した。また、緊急ケアシミュレータに関連する実習内容の必要性とその理解度を調査した。

【方法】救急ケアシミュレータを用いたシナリオの作成：救命処置法として高機能患者シミュレータおよび ACLS トレーナーを用いて、病態急変の代表例である心室細動の発生からベースラインに回復するまで（心肺蘇生実施から薬物投与さらに酸素投与）のシナリオを作成した。実習項目に対する評価：各実習内容の必要性とその理解度を実習前と実習終了時点における評価として回顧的に調査した。

評価法は visual analog scale (VAS) 法を用いて行なった。アンケート内容は、(1)心肺蘇生法の手順および AED の取扱い（一次救命救急）、(2)心肺停止（心室細動）における薬物の投与（二次救命救急）、(3)自己注射器アドレナリン注射液（エピペン®）の使用法である。【結果】高機能患者シミュレータおよび ACLS トレーナーを用いてシナリオを作成し、心肺蘇生法、AED の実施、アドレナリン投与および酸素吸入など救命救急における様々な処置を体験することが可能となった。さらに、[心肺蘇生法の手順および AED の取扱い（一次救命救急）]、[心肺停止（心室細動）における薬物の投与（二次救命救急）]および[エピペン®の使用法]の必要性とその理解度は、いずれも有意な増加（ $p < 0.01$ ）を示した。【考察】緊急ケアシミュレータの臨床薬学系実習への導入は、薬物治療における患者の存在の意識づけ、さらに様々な処置内容の確認を行うことができることから、薬剤師のファーマシューティカルケア能力向上を目指した薬学教育に必須なものであると考える。